

滋賀大学における
データサイエンスの産官学連携 (7)

株式会社マイナビの取り組み

— キャリア・就職支援におけるデータ活用 —

南谷 知志

はじめに

本稿では、株式会社マイナビ（以下、マイナビ社）と滋賀大学との産学連携共同研究の経緯や成果、今後の展望を紹介する。本共同研究においては、大学新卒者採用市場の変化が進む中、就職活動における開始時期と活動量を独自のロジックを用いて分析し、分析結果を基にした学生への指導方針の反映を目指した取り組みを進めている。マイナビ社にて蓄積したデータと大学のデータサイエンス力を融合させ、学生の特徴に合わせたキャリア形成をサポートできる点が特徴である。

会社概要

まずはマイナビ社の概要と手がける事業について紹介する。1973年設立の当社は、「社会が求める人材不足」の課題に向き合うキャリアデザインセグメント、少子高齢化に伴う生産年齢人口減少に向き合うHR（Human Resources）セグメント、医療・介護・福祉領域の人手不足の解消に貢献するヘルスケア&ウエルネスセグメント、労働集約型ビジネスの変化に向き合う人材派遣&BPO（Business Process Outsourcing）、社会やライフスタイルの急激な変化に向き合うメディア&サービスなど、など、幅広い分野にて事業を展開している。その中でも、共同研究を行う就職情報事業本部はキャリアデザインセグメントに該当し、「大学新卒者への就職情報の提供ならびに企業への求人・採用活動に関するコンサルティング」を行う。

事業環境と研究テーマ設定の背景

就職情報事業本部では、学生と企業の架け橋として、より自分を活かすことのできる就職と、企業価値を高めることのできる人材の採用と育成を推進するべく各種サービスを提供している。その中でも代表的なサービスは「マイナビ2026、マイナビ2027」などの就職情報サイトであり、就職情報の提供を行うにとどまらず、自己理解や仕事理解を促すような各種コンテンツをWEBサイト上で提供している。毎年数十万人のユーザーの利用がある当サービスにおいては、取得データの活用および学生の特徴に合わせた就職支援への反映が求められている。特に、学生データの活用に積極的な組織として大学等の教育機関が挙げられ、「キャリアセンター」などの名称で設置される進路指導を行う部門との接触を通じて、学生データのフィードバックを日常的に行う中で、ユーザーデータを活用した施策の検討に関するニーズが高まっていた。そこでマイナビ社は、就職活動における開始時期と活動量に関する分析結果のフィードバックが適切な解決策だと考え、これを滋賀大学と共に学生支援に繋げることができないかを模索した。適切な時期に活動が開始できない、または活動量が十分でない場合、本人の納得感ある就業機会を失うリスクが高くなるものと考えられる。この課題認識から、就職活動における開始時期と活動量を独自のロジックを用いて分析し、分析結果を基にした学生への指導方針の反映を目指して共同研究を進行した。

共同研究の進め方と内容

そこでマイナビ社は2021年6月、滋賀大学と「産学連携に関する基本協定書」を締結した。データサイエンス領域での連携・協力体制を整備し、研究推進チームを組成した。対象となるデ

ータは「マイナビ2026、マイナビ2027」などの就職情報サイトより取得した数十万件のデータのうち分析可能なものを抽出、匿名化処理（個人情報情報をマスクして統計的に処理）した上で分析を実施した。また、アウトプットを学校への提供する際にSHAP（SHapley Additive exPlanations）値を用いた可視化を行い、それぞれの特徴量の結果への寄与度を説明したうえで学校教職員のフォロー施策に反映できるようサポートを行った。具体的には、就職活動における開始時期と活動量への寄与度をSHAP値で可視化し、学校・学部・学科単位での傾向レポートを作成する。分析結果の解釈を容易にした状態で提供することで、学部・学科単位での教職員のフォロー施策（就職支援の注力範囲の確認や教職員へ帳票の共有、就職支援講座実施など）への適用支援につながった。

結果と今後の展望

2023年度にリリースした本サービスは、その後2年間で全国延べ200校以上の学校へ導入され、「学生支援の効率化」、「定量データに基づくキャリア支援施策への反映」が好評を博している。今後の展望としては、データ蓄積による

分析精度向上と対象領域の拡大を図っていききたい。就職活動における最適な支援を追求しつつ、インターンシップ&キャリア応募時期や活動量、ひいては望ましいキャリア形成への示唆出しに活用できると考えられるためである。今後も産学連携による実践的研究を通じ、学生のキャリア形成と企業の人材採用を同時に支援する社会的価値の創出に貢献できるものと考えている。最後に、本研究はデータドリブンな就職支援モデルの構築と、その教育機関への実装過程を詳細に示したものである。学生・教職員・マイナビ社の三者にとって有益なフィードバック体制を構築し、納得のいく進路および就職先の選択に繋がる支援の実現を目指すとともに、今後より多様なデータやAI技術を取り込み、さらなる社会実装を進めていきたい。

<参考Webサイト>

マイナビ 会社HP

<https://www.mynavi.jp/company/history/>

マイナビ2026 特集ページ

<https://job.mynavi.jp/conts/2026/tok/group/mynavi-group/>

マイナビ キャリア採用サイト

<https://www.mynavi.jp/recruit/career/company/business/>

（みなみだに さとし

株式会社マイナビ就職情報事業本部）